

# 平成28年度京都広報賞受賞作品の概要

## 広報紙・市の部

京都市 きょうと市民しんぶん 6月1日号

知事賞



行政広報誌が抱える問題に対して、基本コンセプトをシンプルに明確化しチャレンジしている。行政ワードを市民感覚に置き換え、市民に親しみやすいように分かりやすく伝える工夫が感じられ、関心の薄い若者でも手に取って見てみようと思えるものとなっている。イラストやチャート、市民出しなどの工夫をすることで、読読性をUPさせている。

記事内における情報の問い合わせのフォーマットを統一化し、一目見て分かるように工夫している点など、読者視点に立ったホスピタリティも高く評価された。

京丹後市 広報きょうたんご 12月号

会長賞



とても社会的意義の高い難しいテーマに正面から取り組み、実取材をし、対象者に登場していただく企画は読み手を引き付けることに成功している。全体を通して、丁寧な取材ができていている印象。情報量豊かで、読み応えのある号に仕上がっている。

住民も故郷を誇りと感じられると同時に、他地域から見ても魅力が感じられる情報発信手法は他の手本となるものである。

# 広報紙・町村の部



## 宇治田原町 広報うじたわら「町民の窓」4月号



デザイン、コピーともに洗練されており、タイトルや見出しづくりにおいて、決して背伸びすることなく自然な言葉づかいでトーン&マナーが設定できている。難しい話を温かさと優しさが感じられるように制作されており、表紙からの流れもトーンづくりに役立っている。見出しに結論があることで、本文への興味がわく定石通りの丁寧な構成。どんな人にも見やすく、年齢を問わずに読める気配りも高評価を得た。



## 京丹波町 広報京丹波 127号



堅苦しくない、シンプルな表現が読み手にすんなりと入ってくる印象。タイトルから見出しへのスムーズな流れから、おおよその見当を持って読み進められるので、納得感が高いものになっている。奇をてらって書体や色を使いすぎたりせず、モノクロでもマイナスを感じない分かりやすい紙面である。全体を通して人出しにこだわっているようで、町の色や匂いが感じられる仕上がりが評価された。

## 写真・1枚写真の部

知事賞

京丹後市 広報きょうたんご 7月号 表紙  
(高倉 遼さん)



撮影者も泥だらけになって楽しんでいないと撮れないであろう、子どもの生き生きとした表情を見事に捉えた写真である。コピーにも遊び心が感じられる。静かで綺麗なだけではない、のびのびとした臨場感に溢れ、勢いのある「いま・ここ」がしっかりと顕わされた表紙になっている。

会長賞

舞鶴市 広報まいづる 12月号 表紙  
(高橋 真也さん)



特集ページにつなげるための、撮影前からの念入りの事前準備や想定によって、大変練られた画面構成になっている。どうしても作られた感がでてしまっているので、手にも表情をつけてみるなど、少し動きを加えればより印象深い仕上がりになる。動きのある写真にも挑戦していただいたい。



## 映像の部

知事賞

### 木津川市 「Kizuga-WHAT –Kizugawa City,Kyoto-」



国際交流員・英語指導助手と共に、外国人の意見を尊重し制作したことがよく分かる。この映像を通して木津川市の外国人への温かい姿勢を感じることができる。スタジオとVTRを分けていることでメリハリが生まれている点も良い。

映像のアングル、テロップなど1つ1つを考え抜いたことが伝わる。自主制作でもアイデアによってここまで面白いものができるというモデル事例である。

会長賞

### 京都市 動画シリーズ「平成KIZOKU」内1本 (京都に住んで良かった編)



斬新な企画で面白い。行政広報でストレートにTHE京都をやっても、費用面から映像クオリティーで埋没する。「行政だから変わったことをやってはいけない」ということはない。批判をおそれずやりきった点が素晴らしい。

## 府民賞

### 宇治田原町 広報うじたわら『町民の窓』 12月号

※府民から見た広報紙の読みやすさ、見やすさをweb投票によって決定。



- ・子どもたちの表情がかわいくとても良い。明るい雰囲気。
- ・きめ細かな記事の掲載方法で町の動きが良くわかる
- ・町の情報を伝えたいという意識が伝わってくる
- ・情報を詰め込み過ぎ。もう少し、イラストや画像で工夫をして欲しい。